



ぜひ、ご利用下さい！

DEI 広報表現・ アクセシビリティガイドブック を作成しました

北海道大学は常日頃多様な情報を社会に発信すると同時に、アカデミアでの知識創造にも深く関わっています。

私たちが内外に発信する情報や制作する媒体における表現では、差別や偏見を助長したり、固定観念を押し付けるものとならないよう留意し、制作物に反映させることが不可欠です。

このため、私たちひとりひとりが自らの無意識の差別や偏見に気づき、「多様性と包摂」を理解し、本学が発信する情報、媒体に反映させていくことを目的に、DEI推進本部では「DEI広報表現・アクセシビリティガイドブック」を作成しました。

ガイドブックは、本学が発信するウェブサイト、

あなたの その伝えかた、 大丈夫？



パンフレット、学内広報誌などの媒体、SNSやメール、講演等発表活動、学内での対人コミュニケーションなど、全てのコミュニケーションを対象に、主に下記の項目について取り上げています。具体例を挙げながら、作成する際に配慮すべきこと、避けた方がよい表現など、実践的で役立つ事例を紹介しています。広報やイベント業務に携わる教職員の方々に加えて、様々な文書作成を行う皆さんにも広くお読みいただきたいと思います。

- 1 ステレオタイプに縛られない表現
- 2 誰も疎外しない表現
- 3 国・地域、文化、宗教の多様性に配慮した表現
- 4 成果物のアクセシビリティ改善のために



北海道大学
広報・パブリックリレーション活動の
基本方針

詳細はこちらから！
公式ウェブサイト
www.dei.hokudai.ac.jp



どうして 「女性ならではの視点」は NGワード？

会議の場などで、女性の出席者に対し「ぜひ“女性ならではの視点”で、ご意見を聞かせていただきたい」といった発言を聞いたことはありませんか？

「女性ならではの視点」を求めることは、既存のステレオタイプを無条件に受け入れ、ひとりひとりが持っている感性や思考、行動に歯止めをかけて

しまう恐れがあります。多様性を拒絶する社会やルール、制度などは特定のステレオタイプを生み出す要因にもなり得ます。また、人々がそのようなステレオタイプを内在化し、「事実」として受け止めて、それに沿った行動をとるようになることも頻繁にあります。

個人の発言は、女性全体あるいは男性全体の意見を代弁しているものではないことに留意し、その人個人の意見として尊重されなくてはなりません。



もっと詳しく

「無意識のバイアス」について
ニュースレター vol.5



「多様性」の見え方について
ニュースレター vol.10



分かりやすい日本語に なっていますか？

書類・メールの言い回しが、読者にわかりづらい専門用語や略語を多用していないかチェックしましょう。

また、北海道大学には数多くの国・地域から集まった学生・教職員が学び、働いていることから、文書作成にあたっては誰にとってもわかりやすい日本語を心がける必要があります。

わかりやすい日本語は自動字幕・多言語翻訳機能が使える、文章を読むことが苦手な人々に対して有効です。

参考文献 ◎在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン(出入国管理庁・文化庁)



WRITER

ダイバーシティ・インクルージョン推進本部
特任助教 田邑 恵子



PICK UP BOOK おすすめの本のご紹介

増補版 人間工学とユニバーサルデザイン 新潮流
ユニバーサルデザイン研究会編 日本工業出版

高齢者や障害のある人への配慮から始まり、その対象を拡大してきたユニバーサルデザインのコンセプト。人間中心・利用者視点をキーに、「誰もが使いやすい」製品を生み出すプロセス、気づきや思いという「設計者のマインド」について学べる1冊。

2025年度 桂田芳枝賞受賞者

2025年12月8日(月)、本部事務局棟役員室において「国立大学法人北海道大学桂田芳枝賞」授与式が行われ、第3回受賞者3名に賞金清博総長から顕彰状および報奨金(目録)が授与されました。



桂田芳枝賞について

「桂田芳枝賞」の命名由来となった本学名誉教授の桂田芳枝先生は、女性が研究者として志を高く持つことや女性が社会で活躍することが困難な時代に、自ら道を切り開いた先駆者でした。本賞は、桂田先生の功績を称えるとともに、桂田先生のように本学の女性教員が意欲を持って教育・研究に邁進し、さらに社会発展に寄与する女性の次世代リーダーの育成につながることを目指し、2023年に創設されました。本賞は本学に所属する女性教員(特任教員含む)を対象に、学術上優れた研究を展開するとともに、次世代の管理職等として活躍することが期待される者に対し、顕彰を行います。桂田芳枝先生の詳しいご紹介はニュースレター特集号をご覧ください。



大学院農学研究院
教授

森本 淳子
MORIMOTO Junko



博士(農学)(京都大学)。日本学術振興会研究員、慶應義塾大学助手・講師、北海道大学農学部講師・准教授を経て2024年より現職。生物多様性保全、気候変動対策、劣化した自然の再生に関わる研究教育に従事するとともに、小中学校・高等学校・市民講座での出前授業にも取り組む。

北大に赴任し20年になるとうる節目に大変光栄な賞をいただくことになり感慨深いものがあります。桂田芳枝先生が世界的な功績を残されたのは、高い数学力を発揮されたことは勿論のこと、それに加えて、個性を尊重する風土が北海道大学にあったからに違いありません。出産育児・介護・闘病・死別・・・大切なライフ・イベントをしっかり支え安心して研究教育に取り組める環境づくり、次世代を担う若者たちが個性を伸ばし夢を育める教育研究に邁進して参ります。



大学院保健科学研究院
教授

惠 淑萍
HUI Shu-Ping



博士(医学)(北海道大学)。日本学術振興会外国人特別研究員、北海道医療大学助教・講師、北海道大学保健科学研究院特任准教授・准教授を経て2014年より現職。日本臨床化学会学術賞、米国臨床化学会Zak Award等を受賞。専門は臨床化学、分析化学。脂質代謝異常の予防について研究を行っている。

このたび桂田芳枝先生のお名前を冠した栄誉ある賞を賜り、深く感謝するとともに、身の引き締まる思いです。これまでの研究生活は、多くの素晴らしい指導者や仲間を支えられてきました。本賞は、私のささやかな研究に対する励ましであると同時に、この分野に関わる全ての方々、特に共同研究者や研究室の学生たち、そして常々ご支援くださる方々への賞と受け止めております。今後とも、桂田芳枝先生のご精神に少しでも近づけるよう、研究に精進してまいります。



大学院医学研究院
化学反応創成研究拠点(ICReDD)
准教授

津田 真寿美
TSUDA Masumi



博士(医学)(北海道大学)。米国MSKCC留学後、北海道大学医学研究院にて、助教、講師、2017年から現職。この間、GI-CoREソフトマター、ICReDDを兼任。現在、ICReDD PI。バイオマテリアルと医学の異分野融合研究を推進している。

この度、素晴らしい研究者・教育者・人格者であられた桂田芳枝先生のお名前を冠した賞をいただき、誠に光栄に存じます。同時に、身の引き締まる思いです。私はこれまで、多くのご指導とご協力の元、複数部局の研究・教育・運営に携わらせていただき、国籍を越え、国内外の多くの研究者と異分野融合研究を推進して参りました。様々な多様性を持つ人々が、それぞれのidentityを尊重し、共に活躍・成長できる社会は、学問や研究の発展にも繋がります。本賞をいただいたことを励みに、自らの研究に邁進すると共に、世界で広く活躍できる人材育成にも精進していく所存です。

TOPICK



「北大女性教授ネットワーキングの会」を開催

3月6日(金)、2025年度第2回女性教授ネットワーキングを開催し、19名が参加しました。第一部では、上位職スキルアップ研修「外探世代・イマドキ世代への理解」と題し、麓聡一郎氏(株式会社SKK代表取締役)を講師に迎え、世代間ギャップが生じる背景から、コミュニケーション方法や信頼関係の築き方、指導における工夫等の具体的な対応について学びました。続く第二部では女性教授による懇親会が行われ、普段はなかなか出会うことのない先生との分野を超えた交流が行われました。

CONTACT US



北海道大学
ダイバーシティ・
インクルージョン推進本部
Office of Diversity, Equity,
and Inclusion

公式ウェブサイト
www.dei.hokudai.ac.jp



Email — office@dei.hokudai.ac.jp